

学校概要

創立 145 周年	学校長 相澤 昭宏	副校長 猪熊 憲一	学期 2 学期制	児童・生徒数 591 人
学級数 一般級: 18 個別支援級: 4		主な関係校: 南中学校 井土ヶ谷小学校 六つ川小学校		

学校教育目標

「ともに学びをきりひらいていく子どもの育成」  
 ○「求め続ける子ども」～学びへの関心・意欲を強くもち、常に学びを求め、自分から学び、学びの対象に粘り強くかわることができる子どもを育てます。  
 ○「創り上げる子ども」～自分の思いや願いを大切に、進んで自己の改善を図り、質的な高まりを目指して、創造的に学ぼうとする子どもを育てます。  
 ○「共に生きる子ども」～「ひと」「もの」「こと」に積極的ににかかわりながらそれぞれのよさを感じ取り、互いに支え合い、共に学び、学びや生活に生かしていく子どもを育てます。

学校の特徴

本年度創立145年を迎える伝統校であり、地域との繋がりが大変強い。本校の学区は市街地にあるが、学校の横を流れる大岡川や徒歩10分ほどの弘明寺公園は豊かな自然がある。学校周辺には弘明寺商店街、地区センター、放送大学、京浜急行、市営地下鉄など、公共の施設等もあり学習材が豊かである。  
 古くから研究活動が盛んで毎年全国的な研究発表会を実施しながら、子どものための研究として、生活科・総合的な学習の時間を中心に、カリキュラムマネジメントや1時間の授業づくりの在り方について検討し、実践化を図っている。  
 子どもの主体性を育む教育活動や研究を中心とした学校づくりが同僚性を高め、教師力の向上に寄与している。

学校経営中期取組目標

○ 各教科等の目標の実現と授業実践の充実を図るとともに、「大岡の時間(『横浜の時間』)」を中心にカリキュラムマネジメントを図り、子どもの主体的・協働的な学習をデザインして、さまざまな資質・能力を引き出し、その向上を図る。  
 ○ 地域の人や異年齢の仲間と関わる活動を通して、地域・学校・仲間・自分のよさを感じながら共に学び、共に生きようとする力を育てる。  
 ○ 教職員が研究や啓発・連携などを積極的に進め、日々の指導に生かしていく活気あふれる学校創りをすすめる。

小中一貫教育の取組

南中学校	ブロック	南中学校 井土ヶ谷小学校 六つ川小学校 大岡小学校
9年間で育てる子ども像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分に自信と誇りを持ち、夢の実現に向け進路選択できる子ども</li> <li>・地域社会の一員として自覚を持ち、地域に関心をもって貢献し認められる子ども</li> </ul>	
自校の具体的取組	ブロック内小中一貫の共通した子ども像を目指して、本校のこれまでの教育実践のよさを生かしながら、児童生徒理解、カリキュラムの改善、特別支援教育の連携等、交流事業の機会や日々のさまざまな場面を捉えて、情報の発信・受信を大切にしていく。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	教科等による基礎的・基本的な知識・技能の習得や活用を図り、「大岡の時間」を中心に探究的な学習を通して、子どもが主体的・協働的に学ぶ力を高める。	「はげみタイム」の良さを継続しながら、一人ひとりが考えや思いをしっかりともち、協働的に問題解決をしていく中で、互いに資質・能力を高め合う単元づくり、授業づくりを行うように努める。 子どもが主体的・対話的に学習に取り組みながら、基礎的・基本的な学習内容の習得・活用を図り、教科等の学習の大切さに気付くカリキュラムをデザインしていく。
豊かな心	仲間と共に学ぶよさを大切にしなが、その中で自分のよさや協働するよさに気付くようする中で、自尊感情と他者理解の心を育てていく。	横浜プログラム活用の年間計画を立て、道徳の時間の年間計画と関連させたり、人権会議のテーマと関連させたりすることで全学年で計画的に取り組み、人権意識を高める。 特別支援学級(個別学習教室)や一般学級の子どもたちとの交流を大切に、共に体験を分かち合いながら、相互理解を深めていく。
健やかな体	児童会活動や体育学習を通して、健康に生活する大切さと体力を高めようとする意識や態度を育てると共に、「食育」を通して健康に対する意識を高める。	「健康一番会議」で子どもたちの生活につながる切実感ある課題を設定し、全校で話し合いを深め実践化する。 健康な体を作るための食べ方を理解して、給食を食べられるように継続して指導する。 集会で、長縄を始め体育的な内容を増やし、体を動かす機会を増やす。
教育課程・学習指導	教育課程全体で子どもにどういった力を育むのかという視点を持ち、教科等それぞれの目標の実現に向け、子ども主体の授業づくりを行うことを目指す。	年間指導計画について、活用を更に進め、PDCAサイクルのなかでカリキュラムをデザインしていく。 日常的に教員相互が互いの授業を見合うことを続け、広く教科領域についての考え方や指導法を知る機会を作ることにより、授業力を高め学習指導に生かす。
特別支援教育	全職員の意識を高め、特別支援学級(個別学習教室)や一般学級の子どもたちとの交流を大切に、共に体験を分かち合いながら、相互理解を深める。	さまざまな活動場面の中で交流活動を行いながら、共生及び他者理解の心情を育成する。 障害者に対する理解を深めるため、個別級の教師が学級で話す機会を設けたり、道徳の時間や人権会議との関連を図ったりする。
児童生徒指導	児童支援専任を中心とした児童指導体制で、関係機関との連携を図りながら、いじめや不登校などの問題の早期発見、早期解決に努めていく。	「大岡のもい」「大岡つ子のきまり」を常に見直ししながら、指導を徹底したり、決まりを守れる環境作りを行ったりする。 児童支援専任を中心に、児童の情報共有し、全職員で指導にあたる。また、SSWや外部関連機関との連携を図りながら、ケース会議を必要に応じて行い、チームで対応する。
地域連携	地域の中で、子どもたちが様々な活動を安心して積極的に行えるよう、中学校や幼稚園・保育園、地域、関係機関と連携して、子どもたちの育ちを支える。	学校運営協議会委員と職員との意見交換や交流の機会をもち、地域の中で、子どもたちが様々な活動を安心して積極的に行えるようにする。また、中学校や幼稚園・保育園、地域、関係機関と連携して、子どもたちの育ちを支える。さらに、各学年の学習活動において子どもたちの関心や意欲を高めるとともに、取組の質的向上を図るために、地域や専門家等との連携を図っていく。

人材育成・組織運営	職員が自分の職責を果たすようプロ意識をもって取組む。また、各自がやりがいと成就感を味わえる組織作りを行い、学校運営への参画意識をもつ。	学年研究会や拡大学年研究会、メンターチームの研修等により学習内容や指導法、児童指導や学級経営について密に情報交換をし、教師力の向上に努める。 プロジェクトチームを中心に校内組織の活性化、効率化を進め、主幹教諭や各主任等のミドルリーダーが確実な情報の共有化を図りながら、組織運営を行っていく。
担当	教務事務部	